

第 1 章

計画策定にあたって

1-1 環境基本計画とは

1-2 第4次環境基本計画の基本的事項

1-3 持続可能な開発目標（SDGs）の理念を踏まえて

1-4 計画書の構成

1-1 環境基本計画とは

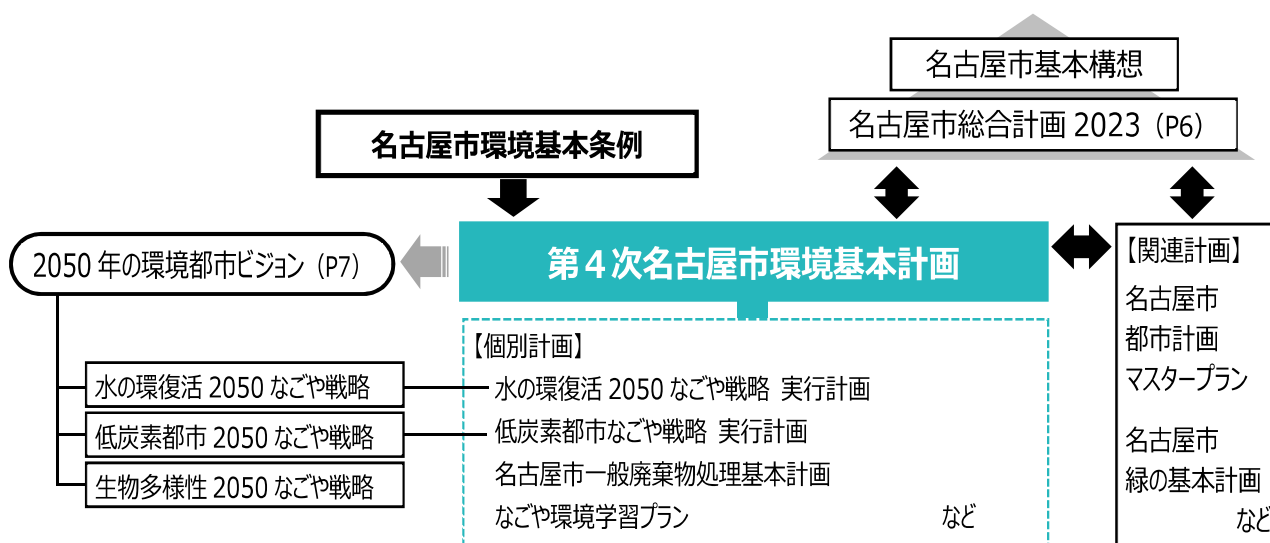
環境基本計画は、「名古屋市環境基本条例」の前文に掲げられた「すべての市民の参加と協働により、人と自然が共生することができる健全で恵み豊かな環境を保全するとともに、人と都市の活動を環境への負荷の少ないものに変えていくことにより持続的発展が可能な社会をつくりあげていく」という理念の実現に向け、名古屋市（以下、「本市」といいます。）の環境の保全に関する施策を総合的・計画的にすすめるための計画です。

1-2 第4次環境基本計画の基本的事項

1 計画の位置づけ

第4次名古屋市環境基本計画（以下、「本計画」といいます。）は、2019年9月に策定された本市のまちづくりの基本となる「名古屋市総合計画 2023」（P6 参照）に沿ったものであり、「名古屋市都市計画マスタープラン」や「名古屋市緑の基本計画」など関連計画との整合をはかります。

また、本計画では、第3次環境基本計画において描いた「2050年の環境都市ビジョン」（P7 参照）を見据えるとともに、環境を取り巻く社会の状況の変化にも対応し、市民・事業者・行政などの各主体が環境保全に取り組むための共通認識として「みんなで目指す 2030年のまちの姿」（以下、「みんなで目指すまちの姿」といいます。）を示し、施策の大綱（施策の体系と方向性）を定めます。



2 計画期間

計画期間は、2021（令和3）年度から2030（令和12）年度までの10年間とします。

3 計画の対象地域

本計画の対象地域は、本市全域を基本とします。なお、個別の取り組みなどにおいては、必要に応じ、近隣自治体などとの連携・交流を積極的にすすめます。

1-3 持続可能な開発目標（SDGs）の理念を踏まえて



出典：国際連合広報センターウェブサイト

2015年9月、国連サミットにおいて、「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」（以下、「SDGs」といいます。）を含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。SDGsでは、貧困やジェンダー平等、気候変動、エネルギー、経済成長など、環境・経済・社会に関する17の世界共通の目標と169のターゲットが設定されています。2030年までの目標の達成に向けて、先進国も開発途上国も協力して、環境・経済・社会の調和をはかりながら、誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現に向けた取り組みをすすめていくことが求められています。SDGsは、国際社会全体の普遍的な目標であるとともに、地域の持続的な発展にとっても重要な目標です。

本市は、2019年7月にSDGs達成に向けた取り組みを先導的にすすめていく「SDGs未来都市」に選定されました。SDGsの理念を踏まえて本計画を策定し、計画の推進を通してSDGsの達成に貢献していきます。

■SDGsの5つの特徴

普遍性

先進国を含め、全ての国が行動

包摂性

人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」

すべてのステークホルダーが役割を

外務省資料より本市作成

本計画における、SDGs の理念を踏まえた計画策定の考え方を以下のとおり示します。

包摂性・参画型

多様性と包摂性のある持続可能な社会の構築が求められています。あらゆる課題への取り組みにおいて、「誰一人取り残さない」という理念を踏まえる必要があります。また、あらゆる主体の参画で取り組むことが重要であるとともに、誰もがそれぞれの持つ力を発揮し、持続可能な社会の構築に参加できるようにすることが必要です。

本計画では、持続可能な社会の構築に向けた共通認識として、みんなで目指すまちの姿を掲げ、具体的な行動を文字情報だけでなく、イラストで分かりやすく示すことで、あらゆる主体の参加と行動を促進するとともに、パートナーシップでの展開を推進します。また、計画の進捗管理においても、市民・事業者との対話を重視するなど、参画型の計画とします。

統合性

環境・経済・社会は、相互に影響し合っていることから、課題の同時解決や統合的な向上をもたらす取り組みが求められています。

本計画では、環境面のみならず、経済・社会面も考慮した、みんなで目指すまちの姿を示し、その実現に向けた取り組みを推進することで、環境・経済・社会の統合的な向上をはかっていきます。

透明性

事業の進捗や成果を測り、取り組みの透明性を高めることが求められます。

本計画では、指標を設定し、その進捗状況や施策の実施状況を毎年度、把握し、公表するとともに、中間年度においては、それまでの進捗状況と課題をまとめ、必要に応じて見直しをはかるなど、効果的に施策を推進していきます。

1-4 計画書の構成

本計画は、本章を含む、全5章と参考資料で構成されています。第2章では、本市の環境を取り巻く状況をまとめるとともに、課題を整理します。第3章では、SDGsの理念を踏まえ、各主体が環境保全に取り組むための共通認識として、みんなで目指すまちの姿を示すとともに、実現に向けた行動や取り組みを描きます。第4章では、本市がすすめる施策の体系と方向性をとりまとめるとともに、みんなで目指すまちの姿の実現に向けて、重点的に展開する4つの取り組みを示します。第5章では、パートナーシップによる計画の推進や進捗管理の考え方を示します。

■計画書の構成

第1章 計画策定にあたって (P1~)

- ・計画の位置づけ
- ・SDGsの理念を踏まえた計画策定
包摂性・参画型・統合性、透明性

第2章 本市の環境を取り巻く状況と課題 (P9~)

- ・環境・経済・社会の状況と課題
- ・市民の環境に対する意識
- ・第3次環境基本計画の振り返り

第3章 みんなで目指す2030年のまちの姿 (P37~)

包摂性・参画型・統合性

パートナーシップで創る 快適な都市環境と自然が調和したまち

パートナーシップがまちを支えている

環境にやさしく豊かなライフスタイルが定着している

人にも生きものにも住み心地のよいまちが形成されている

グリーンな経済が循環している

みんなで目指すまちの姿の
実現に向けた行動

- ▶身近な生活空間で…
- ▶商業・業務地で…
- ▶郊外などで…

第4章 目指すまちの姿の実現に向けた施策の展開 (P49~)

【重点取り組み】(P52~)

<重点取り組み1>

SDGsの多面的な考え方の浸透と、主体的に行動する人や事業者のネットワークの拡大

<重点取り組み2>

環境にもやさしく災害にも強い、快適で安心な暮らしの実現

<重点取り組み3>

自然や水を活かした、人と生きものにやさしいまちづくり

<重点取り組み4>

環境と経済の好循環を生み出す仕組みづくり

【施策の方向性】(P56~)

【施策Ⅰ】(P57~)

全ての主体の環境に関わる学びと行動、パートナーシップを推進する

【施策Ⅱ】(P62~)

健康で安全、快適な生活環境の保全をはかる

【施策Ⅲ】(P66~)

廃棄物の発生抑制や資源の循環利用、適正処理を推進する

【施策Ⅳ】(P70~)

生物多様性の保全と持続可能な利用、水循環機能の回復をはかる

【施策Ⅴ】(P74~)

気候変動に対する緩和策と適応策を推進する

第5章 計画の推進に向けて (P79~)

参画型・透明性

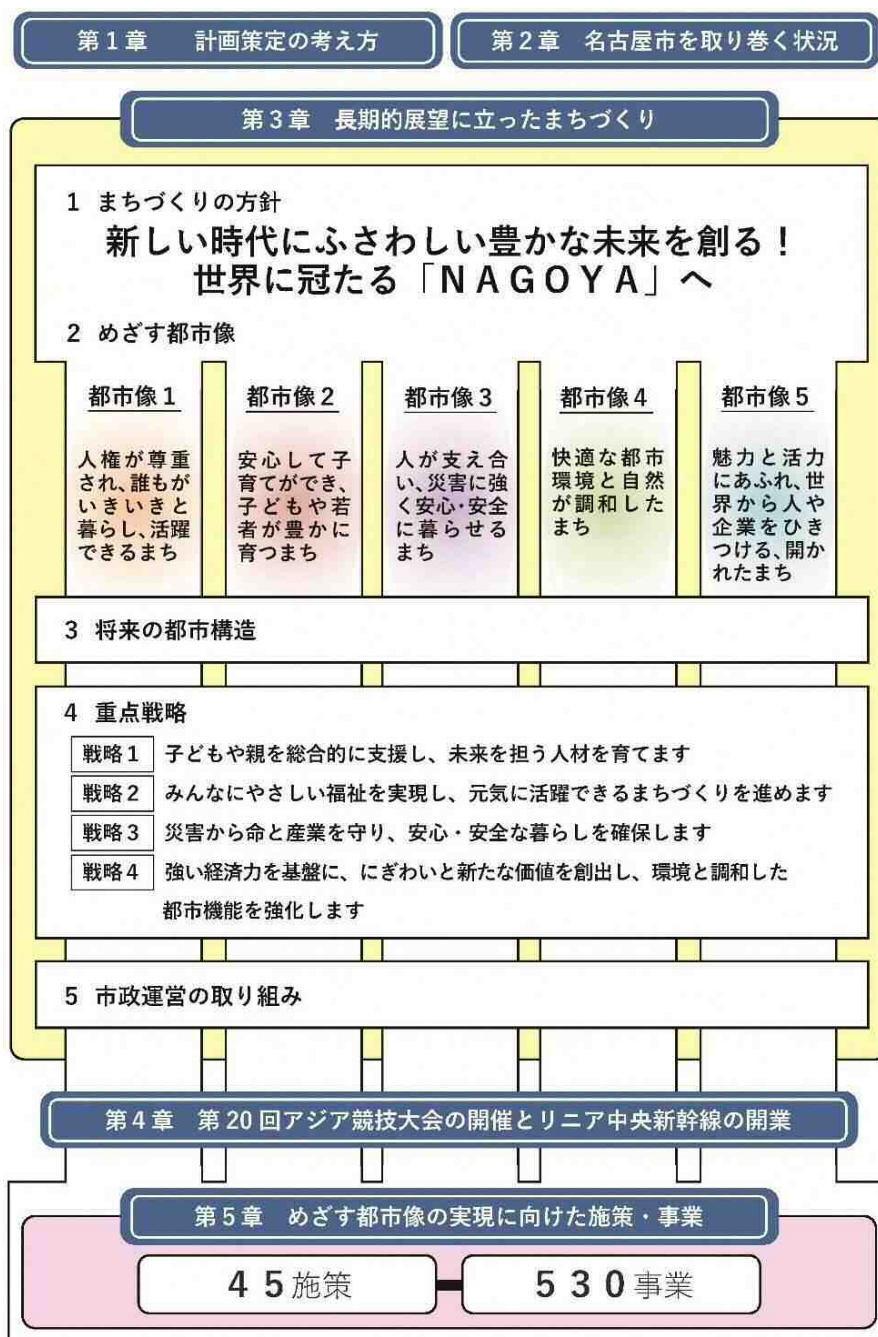
- ・パートナーシップによる計画の推進
- ・進捗管理の考え方
- ・指標・状況把握項目一覧

名古屋市総合計画 2023

本市では、2019年9月に「名古屋市総合計画 2023—世界に冠たる「NAGOYA」へ—」を策定しました。この計画は、市政運営の指導理念である「名古屋市基本構想」のもと、2030年頃を見据え、本市がめざす都市像などを「長期的展望に立ったまちづくり」として示し、2019年度から2023年度の5年間における「めざす都市像」の実現のために必要な施策・事業を総合的・体系的に取りまとめています。

環境に関する施策については、めざす都市像4「快適な都市環境と自然が調和したまち」に主に位置づけられており、「快適な都市環境の中で暮らせるまち」「自然が身近に感じられる潤いのあるまち」「環境にやさしい低炭素で循環型のまち」を将来のまちの姿として示しています。

■名古屋市総合計画 2023 の構成



出典：名古屋市総合計画 2023

2050 年の環境都市ビジョン

2011 年 12 月に策定した第 3 次環境基本計画において、「水の復活 2050 なごや戦略」「低炭素都市 2050 なごや戦略」「生物多様性 2050 なごや戦略」を踏まえて、「2050 年の環境都市ビジョン」を描き、2050 年のめざすべき 4 つの環境都市像を、「健康安全都市」「循環型都市」「自然共生都市」「低炭素都市」としました。

土・水・緑・風が復活し、あらゆる生命が輝くまち

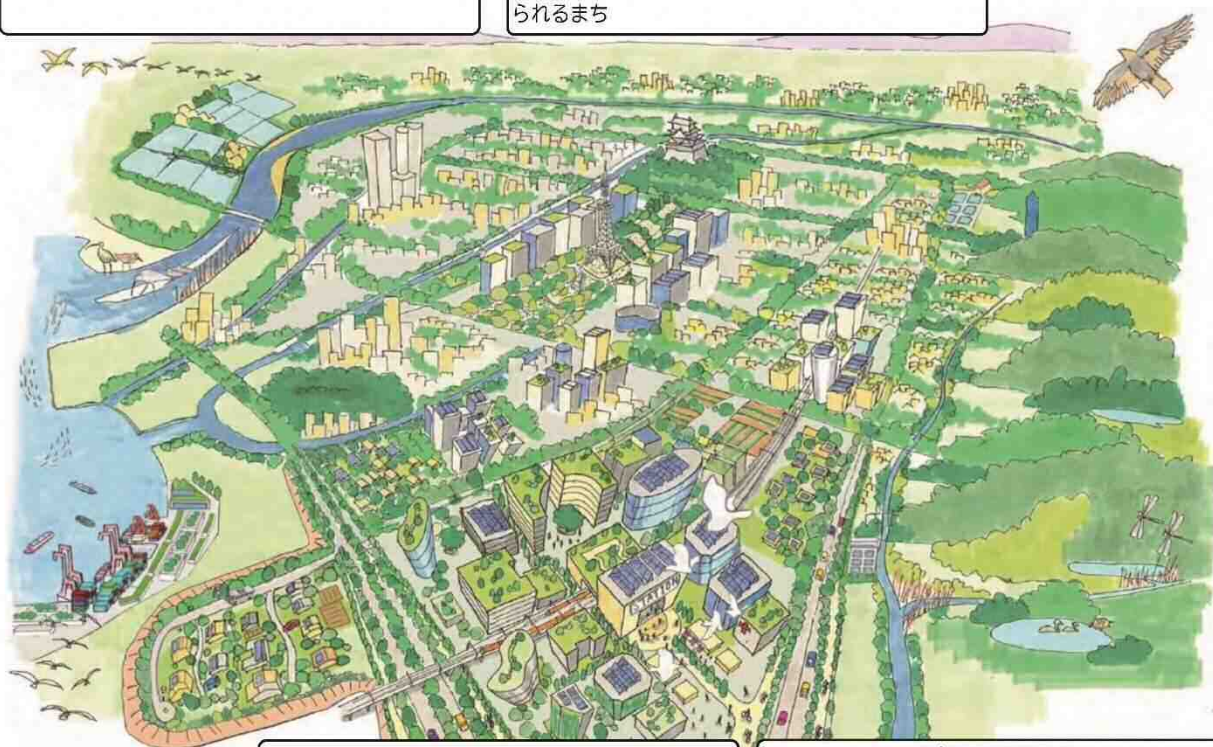
2050 年に向けて、なごやの自然、地形、気候、歴史が織りなす風土を活かし、すべての人が協働することによって、土・水・緑・風が復活して、人も生きものもあらゆる生命が輝くまち、日本のトップランナーとして地球環境保全に貢献するまち（環境首都なごや）をめざします。

【健康安全都市】

大気と水環境などが良好な状態にあり、健康で安全、かつ快適な生活環境が保全されているまち

【自然共生都市】

生態系ネットワークが広がって、健全な水循環が回復し、豊かな水と土・緑、多様な生きものが身近に感じられるまち



【循環型都市】

廃棄物などの発生抑制や資源の循環利用、適正処理が促進され、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が最小限に抑えられているまち

【低炭素都市】

自然エネルギーなどの利用が促進され、ライフスタイル・ビジネススタイルの省エネルギー化が進むなど、少ないエネルギー消費で快適な生活ができるまち

出典：第 3 次名古屋市環境基本計画

